

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700450		
法人名	企業組合 栗南グループホーム		
事業所名	企業組合 栗南グループホーム グループホームすなみ		
所在地	岐阜県瑞穂市古橋1357番地1		
自己評価作成日	平成23年10月13日	評価結果市町村受理日	平成23年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170700450&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成23年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中でその地域の方々とのふれあいを大切に過しています。代表者夫婦はもちろん職員もその地域で生活している者が多く地域行事に自然に溶け込み参加することができます。ホームには毎日のように地域の方やご家族や地域の保育園児が訪ねてくれます。今年4月、居室や居間、食堂、浴室等を増設しより過ごしやすくなりました。1ユニットで入居者も職員も変動が少ないためひとつの大家族のようにいたわりあい生活できます。ホームの敷地内の畑で採れた新鮮な野菜が毎日の食卓を彩り旬のものを一番にいただいています。穏やかな生活の中ゆったりと時間が流れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居室、居間、トイレ、浴室等が増設され、「大家族9人の生活を、良い職員に支えられ、私自身も楽しく毎日過ごしています」と管理者は笑顔で語る。立地条件の良さに加え、代表者夫婦が地元の住民であり、地域の協力を得ながら運営する方針から、地元の人が野菜を差し入れ、利用者との会話を楽しむなど、気楽に立ち寄る場所になっている。利用者と家族との絆が途切れることなく、継続するように、毎月の利用料は出来るだけホームに直接支払い面会し、盆・正月は出来る限り家庭に帰り、家族と生活することが利用開始時の約束としている。ただし、家族に無理のないよう配慮もし、柔軟に対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむ ね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で 不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービ スにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた 柔軟な支援により、安心して暮らして いる (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの特色、特徴にあった独自の理念を掲げ、日々の介護姿勢を全職員が再確認している。	地域の人々と馴染み、触れ合いながら「人のぬくもりを感じられる暖かい暮らしを支える」を理念としている。理念は、目の届く場所に掲げ、職員会議で再確認している。大家族のようにいたわりあい、ゆったりと穏かな生活を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや運動会に参加したり、保育園や小学校の運動会にも招待され交流している。年に4回ほど地域の保育園の園児もホームを訪問してくれ歌や演技等を披露してくれる。また、落語演芸会を開催し地域の方々を招いたりし交流している。	自治会に加入し、良好な関係が築かれ、公民館活動、運動会、夏まつりなどに参加し、また、奉仕活動にも積極的に取り組んでいる。保育園・小学校との交流、ボランティアの訪問も多く、地元住民に呼びかけ、介護教室などを開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの入居者と地域の方々が一緒に地域行事に参加したり、日々の散歩や生活の中で自然に交流している。毎年、行われるホーム主催の介護教室には多くの地域の方々が参加していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多くの地域の方々が参加していただいている。様々な意見や情報をいただくことができる。入居者の状況やホームの取り組み等話し合うことができている。	2ヶ月に1回、自治会長、行政、民生委員、地元住民、家族の参加を得て、開催されている。地域のサロンに参加し交流する提案、また、多くの人にホームを理解してもらう意見も出され、運営に活かせるよう前向きに検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員が毎月来訪して交流している。また、毎回の運営推進会議に参加していただいただけ、その他多くの機会にご協力やアドバイスをいただいている。	市には、運営状況を定期的に報告している。困難事例や、各種の申請書類の相談など、問題解決に向けて連携している。介護相談員の受け入れなど、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言を掲げ日々のケアで振り返りを行っている。ホーム内勉強会でもケアに問題がないか、自覚していない拘束が行われていないか検討している。	マニュアルに沿った研修に加え、安全面から拘束が必要な場合などを想定した勉強会が毎月開かれている。利用者が玄関まで出て外出を求める場合は、職員は止めることなく、語りかけ、同行するなど細やかな対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の様子や話をよく聞き傾向や疑いがないか常に注意をしている。研修会に参加したりホーム内勉強会を開き理解をし職員がお互いに注意できるようしている。		

岐阜県 グループホームすなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	ホーム内勉強会を開き職員の中でも理解が深まるようにしている。必要な入居者がいないか注意している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必ず家族に来院していただき、十分な時間をとり説明、話し合い、医療に関する契約や個人情報についての契約も文書で同意を得るようにしている。できるだけわかりやすく説明し質問しやすい雰囲気作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に家族と連絡を取り合い来院時手紙等で話しやすい雰囲気作りにしている。また無記名のアンケートを行い本当の気持ちや意見を出すことができるようにし全家族からの回答を得ることができた。出された意見は全職員で閲覧し結果、考察を全家族に送信した。次回の運営推進会議でも話し合う予定である。	ホーム便りを毎月家族に送付し、その感想や、意見・要望を聞いている。また、家族アンケートも実施している。家族からは、帰宅した場合に配慮する介護についての意見が出され、無理のない柔軟な対応を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を把握し運営に反映できるよう職員とのコミュニケーションを大切にしている。月に1回程度ホーム内カンファレンスを開き意見が出し易いよう努めている。	管理者はコミュニケーションを大切にしており、月1回のカンファレンスや日々の支援から、職員の意見を求めている。居室におけるテレビの利用時間、浴槽の準備などの意見が出され、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者、管理者は常に職員と接し状況把握に努めている。十分コミュニケーションをとり必要に応じ職場環境整備、改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で行われる研修に積極的に参加し研修内容は研修報告書を作成しカンファレンス時に報告するとともに全職員が閲覧できるようにし理解を深めている。職員を把握しその職員に必要な研修が受けることができるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に所属し協会会議や研修会に参加し意見の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で本人と面談し、要望や気持ちを把握できる機会を設けるようにしている。また必要に応じ入居前の住居を訪れ、生活状況の把握に努め、入居お試し期間を設け不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホームを見学していただき、話し合いを持ち、家族の気持ちや本人の家庭での様子をゆっくり聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の想いを大切にし、家族の要望、現在の状況を踏まえ、今一番必要なサービスを常に考え優先し対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とともに作業したり、食事したり生活する中で同じ感情の共有ができるようしている。入居者が得意なことなどは教えていただき一緒に行えるようしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者個々の様子を家族に伝えるために毎月のホーム便りには担当職員が手書きでお知らせし、協力をお願いし一緒に支えることができるようにしている。ケアプラン更新時にも個々に状況をお知らせしている。またお盆やお正月には家族で過ごすことができるよう勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が馴染みのものを自由に持ってきていただいている。馴染みの方に来ていただきお茶を飲みお話ししていただけるよう支援している。入居者が散歩時に親戚や馴染みの方の家にも行くことができるよう支援している。	地元の利用者が大半で、近所の方が野菜の差し入れや地域の情報を話しに来るなど、馴染みの関係が継続されている。散歩時に親戚に立ち寄ることもある。遠方の外出を希望される場合は、買い物ついでに行ったり、また、家族に協力を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や作業、レクリエーション時に職員も一緒に行い会話し入居者同士の関わりがうまくいくよう配慮し、孤立することがないように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の方や退去者が相談できるよう雰囲気作りに努めている。転出や入院時は情報を提供し同様なサービスを受けることができるよう連絡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子、会話や表情をよく観察し把握する。困難時は全職員で検討しよりよい方法を考え本人に寄り添うように努めている。	利用者ごとに担当職員が決められており、寄り添うケアから希望を聞いたり、意向を把握している。把握が困難な人は、家族から情報を得ている。把握した思いは、その人らしい暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者や家族の話の中で生活状況を常に把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活スタイル、希望にできる限り対応し入居者一人一人の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画更新時や必要時に毎回アセスメント、モニタリングし本人の想いや希望の変化を把握している。担当者を中心にケースカンファレンスをし意見を交換し計画をたてている。	担当職員は、利用者の日々の生活を記録し、家族の意向を踏まえ、全職員で検討し、専門職の意見を入れながら介護計画を作成している。また、定期的見直し以外でも、気づきなどには柔軟に対応し、家族と相談し、見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護ファイルを利用しケアの実践や気づきを記録し全職員が情報を共有できるようにしている。それに基づき介護計画見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に応じ必要なサービスの支援を行っている。		

岐阜県 グループホームすなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年6回以上、運営推進会議を開き地域住民との意見交流を行っている。また、年に2回 近隣住民と防災訓練、救急法等を行い、緊急時に備えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の病院内で本人や家族の希望を聞きかかりつけ医を決めている。入居時に医療に関する希望を聞いて文書で同意をもらい、入居しても引き続き同医療が受けられるよう配慮している。	契約時に、かかりつけ医に対するホームの方針を説明し、同意を得ている。協力医には、健康診断のために、月に1回程度受診し、同行している。原則、緊急時以外の受診は家族が対応し、家族が無理な場合はホームで対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、常に連絡を取りあい、相談できるようにしている。入居者の健康管理や状況変化に応じた支援ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には入居者の支援に関する情報を提供し、できる限り職員が見舞い、医師からの説明も家族とともに聞くようにし、状態を把握し速やかな退院支援につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療に関する契約書を作成し入居者の想いや家族の希望を把握している。契約書は状況の変化に応じ常に再確認している。また同時にホーム内でできるケアについて十分に説明し理解をいただいている。	契約時に、重度化や終末期に向けたホームの方針を説明し、医療関係同意書が作成されている。状況に応じ、早い段階で、家族・医師・関係者が十分に話し合い、重度化による医療行為が必要な利用者は、他の医療機関を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを作成し入居者の急変や事故発生時に対応できるようにしている。緊急時に備え、定期的に防災訓練や救急法講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署や地域の方々の協力を得て、消火器の使い方、避難訓練、救急法講習を行っている。また全職員で、避難場所、経路等を確認し連絡体制を整えている。	年2回、消防署の指導の基、災害訓練が実施され、避難訓練、消化器の使い方、避難場所・経路の確認など詳細な取り組みが実施されている。災害時の組織体制、役割分担などのマニュアルが作成されている。	火災訓練においては、地域の協力が得られている。引き続き、地域との関係づくりの促進に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報についての取り扱いを徹底するとともに、ホーム内勉強会を行い職員の意識向上、統一を図り、人格の尊重、プライバシーの確保に努めている。	利用者も職員も地元住民である関係から、慣れ親しんだ関係ではあるが、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提供し自己決定の支援を行い、また入居者の思いや希望が言いやすい雰囲気を作るよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩時にも入居者と十分コミュニケーションをとりながら、一人一人のペースを大切に、それぞれの入居者の思いや状態に配慮し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に服装は自分で決定している。自己決定困難な入居者には職員と一緒に考え、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、食事、後片付けを入居者と職員が行い、食事が楽しみなものになるように努めている。	地域住民から多くの野菜が届き、利用者から保存方法などの指導を受け、共に作業するなど、残存機能を発揮してもらっている。庭でとれた新鮮な季節の野菜を多く利用し、一緒に食事の準備をしたり、後片付けを行い、同じテーブルで職員も食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容、個々の食事量、水分量を記録し職員全体が情報を共有できるようにしている。栄養は一目でバランスがわかるように、肉・魚・豆類は赤、野菜・果物は緑、卵・乳製品は青と献立表に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の能力に応じて、見守り、声かけ、援助を行い、口腔内の清潔を保つことができるよう努めている。		

岐阜県 グループホームすなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を促すよう、入居者をよく観察し時間や排尿パターンを把握しトイレへの誘導を行っている。	昼間は、トイレへ誘導することにより、布パンツに布パッドを利用する人もいる。布パッドは、洗濯して何度も利用でき、失敗すればすぐ感じることから、自立に繋げることができ、利用開始時より、排泄は自立に向けて改善されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や水分を多く摂るようにするとともに、散歩や体操で適度に身体を動かすことができるよう支援している。自力排泄困難な方には入居者の状態を把握し、より負担の少ない方法で援助できるよう対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回、本人の希望にあわせた時間に入浴できるよう配慮している。	午前と午後に湯を入れ替え、希望に添った入浴を楽しんでもらっている。週3回の入浴を原則としており、入浴を好まない利用者には、誘導を工夫している。介助が必要な利用者には2人で支援し、安心して入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促して生活リズムを整え、入居者が休息や安眠ができるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに整理し、服用内容が速やかに把握できるようにし、服用シートを作成し服用を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で力が発揮できるように、一人一人にできそうな仕事を頼み、その度に感謝の言葉を伝え、張り合いや喜びのある日々を過ごすことができるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を目で見て肌で感じてもらうためにも、散歩や買い物、花見などで戸外に出かけている。出かける際は、それぞれの希望を把握し、希望に合った外出支援を行っている。	周辺は、車の往来も少なく、散歩を楽しむことのできる環境である。利用者の健康状態、天候に合わせて近くの公園に出かけている。屋のおにぎりを各自で握って外出したり、途中で希望の場所に寄ったりしている。桜、梅、しょうぶ、バラ園などに行事として出かけ、外食を楽しんでいる。	

岐阜県 グループホームすなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く際に可能な方は小額のお金を所持し自分で払ってもらえるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じ、日常的に本人自ら電話をしたり、手紙が出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食欲をそそるご飯のおいしい匂い、窓から見える野菜や果物、花等 季節を感じるができるようにしている。また、職員との会話を多く持って入居者が居心地よく過ごすことができるようにしている。	対面式の台所から、料理の香りが漂い、大きな窓から季節の果物や野菜、花を見ることができ、部屋の中でも季節感を味わうことができる。窓からは、太陽の自然な光、そよ風が心地よく入り、花が飾られ、ホームの行事の思い出の写真が掲示され、利用者が、思いのままにゆったり過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者全員が集うことができる居間に大きな机があり食事時間以外は自由な席で、人の気配を感じながらも一人の時間を楽しむことができるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使用してきた馴染みの物を持ってきていただき、居心地よく快適に過ごすことができる空間作りに配慮している。	居室は和室と洋室があり、部屋の入り口に利用者の写真が掲げられている。家族との関係を継続させるためにも、衣替えを家族と共にすることが定着している。使い慣れた整理タンス、鏡を持ち込んでもらい、写真等を飾り、利用者が快適に暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全確保と自立への配慮のため浴室やトイレ、廊下等に手摺を付け、職員全体で話し合い少しでも残存する能力を引き出すことができるよう工夫している。		